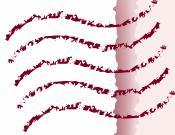
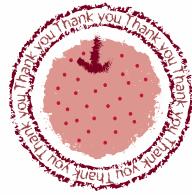




町長コラム ベア・バル

コロナウィルスをぶっ飛ばせ



ロック界の伝説チャックベリーは楽曲『ロールオーバーベートーベン(ベートーベンをぶっ飛ばせ)』でクラシック界のイノベーター・ベートーベンを駆逐する勢いの曲を書きました。白人社会の音楽的象徴を凌駕しようとする黒人のチャックの意思と気概を感じる曲です。

同曲を聴いている内にベートーベンに興味を持ち、彼の人生の凄まじさを知りました。幼いころから才能を開花させた彼は音楽家の父に教育され宮廷音楽家として活躍。その後父が酒に溺れ苦労を重ねます。時代は仏革命へ突入し、宮廷が崩壊し、個人の自由と人権が浸透するにつれてベートーベンの曲に味わいが深くなります。驚くことに、後世に残る名曲の多くは全聾以降の作品。胃腸が弱く体の不調が常で親族とも不和が起り散々な人生ではありました。彼の言葉は現代にも共感を呼び起こす力があります。曰く「辛いことを辛抱しながら考えてみると、一切の災いは何かしら良いものを持ってきている」。こうした姿勢が「傑作の森の時代」を作ったのでしょう。

私はこのコラムで今年を振り返ろうとしていますが、同時に今年の締めくくりとしてコロナ禍の余韻の中に

います。一年延期となったオリンピックも予定していたおもてなしの数々も夜露と消え、夜の会合は一斉になくなり、歓送迎会や忘年会、新年会さえも様子を見ながらの可否です。愛する人への面会もままならなかったり、集う、懇親を深める、新人を歓迎する、感謝をこめて送別する、こうした当たり前の事が当たり前にできなくなった、全く大変な時代を経験していると心中穏やかではありません。

交響曲第九番『歓喜の歌』の季節が到来する頃にまたそろりそろりと第6波が近づいてこないかとうかうか寝てもいられない年末。しかしながら今年の大晦日は、ベートーベンの苦難の人生に思いを馳せ、名作の数々がどのような景色を背負って作られたかを考えて鑑賞しようと思います。そういえば第九を日本に広めた旧会津藩士松江豊寿も悲哀の多い人生でした。今年の第九は特別な響きを持ちそうです。よいお年をおむかえください。

ゆたか

利府町長 熊谷 大

利府町

地域おこし協力隊がゆく！

No.31 梨の花芽は夏の成果！

冬が到来し、梨の葉が落ちたら、来年の収穫に向けた剪定を始めます。剪定では、不要な枝は切り、必要な枝は棚に誘引します。必要な枝の判断基準は、梨の実になる花芽の数です。枝に花芽を多くつけるために、夏場の誘引をします。写真のように紐で斜めに負荷をかけると、枝に花芽がつきやすくなります。

今年は、夏の誘引をしっかり行ったため、多くの花芽がつきました。来年は、沢山の梨が期待できそうです。梨作りは、一年を通して努力した分だけ多くの梨が収穫出来るために、本当にやりがいがあります。2022年も立派な利府梨を収穫するため、冬の剪定を頑張っていきます！



利府梨や梨カレー作りなどをブログで発信
「元新宿サラリーマンのトカイナカ暮らし」

利府おもて梨園

検索



おうみ たかゆき
近江 貴之
(利府梨王子)